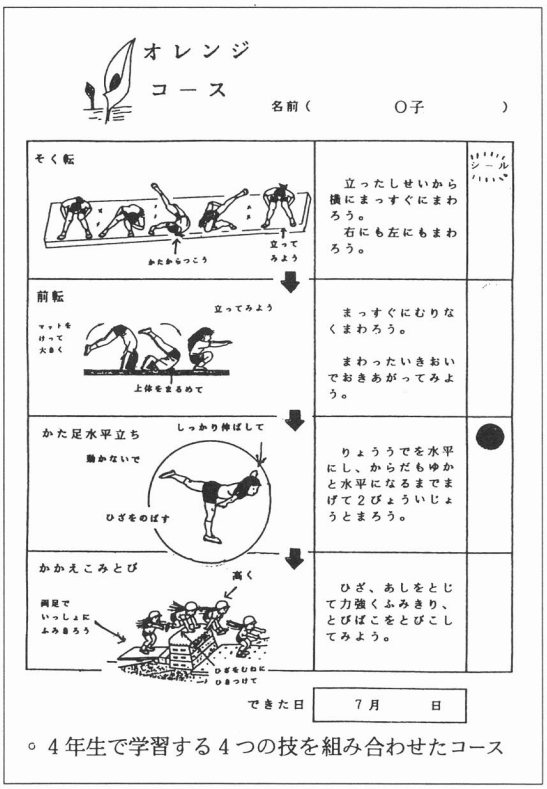


◦ 4年生で学習する4つの技を組み合わせたコース

◦ 4年生で学習する4つの技を組み合わせたコース

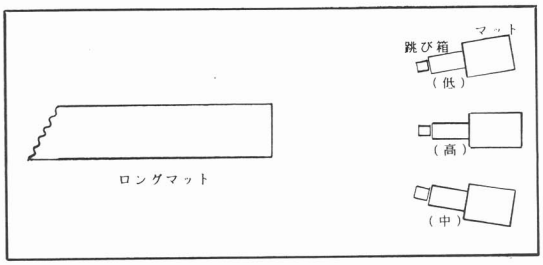
③　課題練習の過程での工夫

ア　個に応じた練習の場の設定

自分のめあてに向かって，苦手な技だけを練習したり，連続技を練習する児童に対処できるように，図6のように各班ごとにロングマットと高さの異なった跳び箱を配置した。それらに加え，かかえ込み跳びができない児童のための，ゴムひもを利用した練習台や，高さを恐がって開脚跳びができない児童のための，ロールマットなどを準備した。また，高い跳び箱に挑戦する児童のためにロイター板などを準備した。

そして，自分の課題を達成するために，どのような用具を必要とするのかを考えさせ，自由に使用できるようにさせた。

（図6）



イ　グループ編成の工夫

一般的には，単に技能面の向上をねらうならば，同質のグループ編成にした方が効果があると思われる。しかし，お互いに「よさ」を生かし合い，楽しさを味わわせるためには，異質グループ編成の方が効果的であると考えられる。異質のグループ編成の中で，課題は異っても，協力し励まし合って練習することで，児童は，練習方法や技の細かいところまでお互いに教えたり補助し合ったりできるからである。

このことにより，自分の「よさ」を生かすとともに，技がますます確かなものとして定着するものと考えた。そこでソシオメトリック調査や担任教師の日常生活の観察を生かして，異質グループを編成した。